

ユニオンよ!

管理者のかたをもつより、職場で悩む組合員の立場に立て!

「大二輸分会の見解」は管理者志望の作者・ユニオン一部役員による、
会社サイドの見解だ!

7月23日、大二運ユニオン分会の掲示板に私たちの事だろうと思われる「海労の交差点No.190」についての主張が「ぶんかい2ユース(号外)」で「大二輸の見解」として出ました。

その中に「私たち乗務員は、乗務員気質的な相互に助け合う精神がありました。・・・」で東海労がそのことをかなぐり捨てたと書いていますが、とんでもありません!これまで、私たち東海労の組合員(乗務員)が会社から昇給カット・ボーナスカットされ裁判で闘っていることに対して会社側にスタンスをおき、避難・中傷したのはユニオンでした。また、東海労組合員が会社・管理者から精神的な病気に追い込まれたり、「長期日勤」にされているときに、はたして助けてくれたのでしょうか?さらに東海労組合員に止まらずユニオン組合員が1ヶ月、2ヶ月に及ぶ「長期日勤」にされている間、抗議もせず常に「ダンマリ」で「乗務員間の助け合い」どころか労働組合としての役割もほったらかしにしてきたのは他でもなくユニオンではなかったのでしょうか。

先日、大一運に於いて、東海労組合員が遠方の親が病気で急遽の帰省をするため飯田指導科長に訓練の変更を申し出たところ、「前に別の運転士が旅行に行きたいからと言ってきた。それと同じ事や。」と社会常識を逸脱する発言をし、さらに「これからは与えられた業務はやってもらうからな!こんな時だけ頭を下げにくるな!」と、この場におよんで申し出た組合員に恫喝をしてきました。

この時も東海労大一運分会が不当な会社の対応について出した掲示に対して、ユニオンの藪崎分会長が会社の立場に立って文句を言ってきました。

ユニオン組合員を隠れ蓑に労務管理を推し進める管理者を擁護する姿勢は、まさに「御用組合」の真骨頂です。

私たち東海労はユニオン一部役員の自己保身のため会社・管理者の代弁者としての「会社サイドの見解」に強く抗議すると同時に、乗務員の立場に立った職場運動をします!